2019年9月30日

SIC システムモビリティ分科会 参加募集のご案内

システムモビリティ分科会 主査
東京大学 西成 活裕

この度、SICの活動としてシステムモビリティ分科会を立ち上げることとなりました。今年度のシステムモビリティ分科会では、モビリティの中でもシステム思考がより求められる「物流」に焦点を当てることとしました。都市内・都市間・国際・工場内物流、都市構造、ロボット技術等の最先端の取り組みを学びながら、物流と都市のあるべき姿を明確にして参ります。

よろしく参加のほどお願い申し上げます。

1. 背景

地球温暖化、先進国を中心とする少子高齢化の進展等に伴い、輸送部門のCO₂の削減、交通事故死亡者削減、交通渋滞の解消、公共交通のドライバー不足対応、物流の高度化等、課題が山積している。

このような中、MaaSに代表されるように次世代のモビリティのあり方を模索する動きが始まっているが、各所での検討は、中心となっている企業等の技術やサービスを背景としており、必ずしも次世代のモビリティの「全体最適解」を検討する動きとなっていない。

また、既存の検討における対象は旅客輸送が中心であり、物流の最適解に関する研究は十分ではない。

2. 目的

システムイノベーションセンターの持つ、「産学横断」「多産業横断」の智の集積を活かし、生活者や企業にとって、より制約なく人の移動・モノの輸送が可能なモビリティとそれを支えるインフラ、およびこれを具現化するビジネスの姿を構想する。

3. 着眼点

本分科会では、モビリティ分野でも比較的検討が手薄な「物流」に着目する。物流の場合、「積み替え」での効率化が物流交通全体の円滑化に重大な影響を与えるため、ロボット・AIを活用した積み替えの効率化が有効である。

そこで、「ロボット」「輸送手段」を有効活用して「物流」を最適化する全体システムの姿の明確化に焦点を当てる。

4. 活動の進め方・内容

活動期間は2019年10月～2020年12月までとする。

活動を前期、後期に分け、前半は勉強会を行いながらシステムモビリティ分科会の活動のゴール（目指すべき物流と都市システム）をより明確化するべく議論を行う（別紙スコープ案も参照のこと）。後半は、システム実現に向けた具体的な課題の解決方法の検討を行う。

（1）前半：2019年10月～2020年3月：勉強会＋意見交換

【現時点での勉強会のテーマ案】

- ① 国際・都市間物流の実態と課題
講師候補：日本郵船様
- ② 都市間・都市内物流の実態と課題
講師候補：ヤマト運輸様
- ③ 次世代の都市の姿
講師候補：森ビル様
- ④ 次世代の工場内物流
講師候補：ファナック様
- ⑤ ロボット技術の最先端
講師候補：ZMP様

（2）後半：2020年4月～12月

（前半の議論を踏まえて別途作成）

5. 体制

主査：東京大学 先端技術研究センター 西成 活裕 教授

主査を支援する事務局体制については、分科会の立ち上げ後、承認を得て確定する。

以上